



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和6年7月5日

No.4



人権学習を通して 考えたこと

2年生



みんながみんな好きってわけじゃないし、受け入れがたいことも多くあるけど、助け合わない・支え合わない理由にはならない。一人ひとりを大切に「一人で生きるより、みんなで生きる」ことを心掛けていきたい。

一人だけが頑張るんじゃなくて、みんな同じくらい頑張る。一人ひとりの想いを大切に、たくさん関わり、たくさんの意見を大事にする。

誰か一人でも欠けてしまえば成り立たないから、否定するんじゃなくて少しずつ認めていく。受け入れきれないことがあったとしても、それを表に出すんじゃなくてどうすれば受け入れられるか、仲良くできるかを考える。

「分からないことは教え合う、できないことは協力する、怖くなったら支え合う」を大切に。年齢や性別の壁をなくし尊重し合う。

全世界の人が笑顔で手をつなげられるようになればいいな。

2年生は資料を使って「決めつけ」や「思い込み」が、偏見や差別へと発展することを理解し、決めつけや思い込みによって人を判断するのではなく、その「ひと」を理解し、認め合おうという学習を進めました。

今回は2年生の学習と考えたことを紹介します。
(文章は一部編集しています)

人に対して何も知らないのに勝手に決めつけたり、それによって差別をしたりするということは絶対にあってはいけないことだと強く思いました。また、固定観念により悲しむ人がいると思うと、一つの意見にとらわれてはいけないとすごく思う。

これから周りの人がどう思うかを考えて行動すべきだと改めて思いました。

どうしても人は見た目などから相手を見てしまって偏見や固定観念を持ってしまうけど、まずは相手のことをよく知るためにたくさん話すことが大切だと思う。そしたら、偏見や固定観念も少なくなると思うから。そして、いじめは何があってもどんな理由でもしてはいけないと改めて思った。自分が納得いかなかったり、イライラしたりすることもあるけど、人はみんな違うからお互いの個性を尊重し合い、認め合うことが大切だと思った。

偏見や差別を生まない力を磨こう！



気付かないうちに固定概念や偏見、差別で人を傷つけているかもしれないと思った。自分の勝手なイメージを人に押しつけるのではなく、一人ひとりの個性を尊重できる人になりたいと思った。また、自分らしく生きることが一人ひとりの個性につながると感じた。だから、誰もが自分の良さに気付き、自分の個性を大切にできる社会になればいいなと思った。そのためには、全員が人の個性を認めて大切にする必要があると考えた。

改めていじめはどんな理由でも絶対にあってはいけないとも実感した。いじめを見たら仲裁者になりたい。自分がいじめている人を止めに行くことは難しいかもしれないけど、先生や家族に相談していじめを止めることはできると思う。いじめをなくせる世の中にするためには、仲裁者になれるように頑張りたい。

「偏見」とこれまで思っていたことは「固定観念」だったと知った。固定観念から偏見、偏見から人権侵害になってしまわないように、思ったことはすぐには口に出さない、人を見ただけでは分からないから話を聞く、などの自分にできることをやっていきたい。

「君、想像したことある？」を読んで、いじめられている人にはその人のために色々尽くしてくれている親がいたり、友達がいたりすることを忘れないようにして、自分の行動や発言に気をつけていきたい。

人を偏見で決めつけることや、嫌な態度をとっていやがらせをすることが、相手を嫌な気持ちにさせるから、その人の内面を見ていない言動はダメなことと意識して生活していきたい。

自分にとっては何気ない軽い気持ちで言った一言が相手にとっては鋭い針になり、心に傷がついていくことが分かった。そして、その傷が深く大きくなっていくことで取り返しのつかないことが起きたり、相手の自分らしさが失われたりしてしまうことに繋がっていくと感じた。私にも言われたくないことがあるから、相手もそうかもしれないという思いで発言していきたい。言葉に一つひとつ魂が宿っていて良くも悪くもなるので、相手の想いに寄り添った言葉を発せられるようにしたい。

いじめは、いじめている側が自覚を持たずにいじめていたり、差別していたり、何も考えずに言葉を発しているだけということもあるのだと知りました。自分が言われたらどうなのか、もっと一緒に笑い合えるような関係になれなかったのかをいじめをしている人には考えてほしいです。私もどこかで人を傷つけていることもあると思います。相手の悪いところを見つけて言うのではなく、認めて良いところを探せるようにしたいです。

みなさん「アンコンシャスバイアス」という言葉を知っていますか？自分の中にある無意識な思い込みや偏見のことです。この思い込みや決めつけ、偏見が表面化したとき「マイクロアグレッション」という、自覚なき差別(言葉や態度となって相手に伝わる否定的なメッセージ)へと繋がります。アンコンシャスバイアスは、価値観や過去の経験、情報等により無意識に誰もが持っているもの。意思決定や発言をする前に一度ブレーキを踏む意識を持ち、他の選択肢はないか考えてみよう。

